

草木染めで学ぶ里山の植物多様性

小川哲矢・下向井勇真・野村公平
(兵庫県立三田祥雲館高等学校自然科学への誘い3班)

目的

森林、里地里山、河川、湿原、干潟、サンゴ礁などには個性を持った生物が数多く存在しており、これを生物多様性という。また、日本は島国であり独自の進化を遂げた固有種が生息している。しかし、現在外来種の進入により固有種が減少し、生態系が失われつつある。そこで、草木染めを通して里山の植物の多様性の守り方を考える。

南公園の現状

① 放置による常緑植物の繁茂
常緑植物の繁茂により日光が遮られ、地表付近の植物が生長できなくなり、多様な種の生育が制限されている。

② 竹の侵入
竹は生命力が強く根も硬く、深いため伐採が難しい。また成長速度、繁殖力ともに高いため他の植物の生息地にまで侵入している。

生物多様性の喪失

様々な植生が分布する南公園



草木染め

< 媒染液について >

1. 植物の色を繊維にしっかりとくっつける。
2. 植物の持つ色素をいろいろな色に発色させる。

今回は鉄媒染(図上段) アルミ媒染(図下段)を使用した。

< 染色方法 >

1. 染液に布を5分つける。
2. 水ですすぐ。
3. 媒染液に5分つける。
4. 水ですすぐ。
5. 好みの色になるまで1から4までを繰り返す。
6. 干して乾かす。

まとめ

今回、草木染めでは同じ南公園の植物を使った。しかし、染めてみるとさまざまな色が出てきたので全く違う種類であることがわかった。

このようにたくさんの種類がある里山は、これらの植物だけでなくこの地域にしか存在しない貴重な植物も生育している、そのため、生態系は絶対に守らなければいけないと感じた。そ

の方法として、その環境に外来種を侵入させず人が持ち込むことを防ぐことが大切だ。そして自然には、里山のように人間が手を加えることで生態系が維持されてきたことを忘れてはならない。



アセビ



アオキ



フジ



ヤマウグイ



ナナメノキ

